

平成29年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 網走福祉協会	代表者	理事長 古賀 敏朗	法人・ 事業所 の特徴	<p>網走市向陽ヶ丘の住宅街にサテライト型の地域密着型介護老人福祉施設並びに小規模多機能居宅介護支援事業所を開設運営し、網走市の高齢者福祉、介護の推進、充実に貢献する事を目的とし、平成21年4月にオープンした。ユニット型個室であり、入所定員18名（9名1ユニット×2）</p> <p>小規模多機能登録定員、15名（通い定員：最大9名、泊まり利用定員：5名）</p> <p>「地域密着」とはお年寄りがこれまで過ごしてきた地域での生活、人間関係が継続できること。「小規模」とは、お互いになじみの関係がもてる居場所であること。「多機能」とは、『通って』『泊まれて』『自宅に来てくれて』『将来的に住む』ことが出来ることが有機的につながっている事を指します。</p> <p>介護の内容は、日常生活全般の介護看護、地域・社会活動への参加、ご家族への支援である。</p> <p>介護の目標は、一人一人に向き合い、気持ちに寄り添うこと。1日の生活がスムーズに流れるように支援すること。家族や地域とのつながりが切れないよう支援し、誰でも立ち寄って頂ける施設環境を作っていく。</p>
事業所名	小規模多機能型居宅介護 事業所 向陽ヶ丘レインボーハイツ	管理者	蒲生 正幸		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援 センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	1人	1人	人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> 曖昧な解釈部分、(職員の評価に対する取り組み方など)について今後、必要に応じて添付資料や説明を加え、解釈理解へつなげていく。 今後もスタッフ間の事業所評価を行う際は勤務の都合上で毎年参加できない職員が重ならないよう配慮していき、普段の職員間の会議を通じても職員の意見等の確認を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度に関しては、出来るだけ全員からの意見を収集できるよう、各ユニットの会議を活用し、複数回に分けて職員の意見収集や確認を行い、出来るだけ全職員の意見が反映できる形で実施してみた。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の中から、出来ていることもあれば、出来なかった事もあったと感じられた。 概ね出来ていることが多かった。 評価での『できなかった点』について記載されていることが次回の改善策にふれられている内容もあればふれられていない内容もある。できていなかった点として上げられている以上、個人的な主観や全て改善策に繋がる内容も中にはあるが“どうしてできなかったのか”といった理由だけでもふれられていると今以上に中身が見えてくるので理解につながるのではないかと。 項目(地域のかかわりシート)Aに関しては主観で答えることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所評価の取り組みに対し今年度同様、出来るだけ全職員の意見が反映できる体制を次年度もとり実施していく。

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方にむけて運営推進会議の始まりや終わりの時間を活用して簡単に施設内の見学を来年度、実施していく。また、施設内の様子や利用者さんの日常の様子などもスライドで写真を用いて知ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の開催の時間上、施設見学の実施までは至らなかったが利用者さんの日頃の様子や行事参加の様子などをスライドで写真を見ていただき地域の方、家族の方共に反響は良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設問、No2のように地域の方は実態が分からないので評価がずっとわからないままになってしまう。何か評価につながる取り組みの工夫が分かる内容やデータを事前に提示してもらおうと良いのではないかと。 ・No2の居心地に関しては、ご家族の意見、評価で良いのではないかと？ ・参加された家族の意見としては職員の関わりや施設の環境について問題ないと感じている。 ・利用している家族の方が「いいえ」と回答があるのであれば今後意見に反映させていくと良いのではないかと。 ・施設の様子や利用者さんの様子についての写真をスライドで見せてもらったので分かりやすく評価もしやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備や空間整備に対する取り組みを運営推進会議等で報告を行い、地域の方に対しても周知につなげていく。 ・次年度も利用者さんの様子についてスライドを見てもらう機会を設けていく。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に施設のことや取り組みのことなど知ってもらう為に広報誌「にじ色便り」を向陽地区全町内へ配布の拡大の検討、実施を次年度から行い、更なる施設の認知につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の協力もあり、今年度より向陽地区全地区へ回覧の配布を図る事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の者としては設問Bと同じように実態が分からないことや各々の主観によって評価基準が変わってしまう。 ・前回の外部評価より地域の人に事業所を知ってもらう取り組みとして、広報誌の『にじ色便り』の配布を向陽地区、全町内会とした。そのことにより、これまでよりも地域の方に事業所の存在などを知ってもらえる取り組みになっていた。 ・施設に対する、利用の相談件数も知らせてもらえると質問No3の評価をするのにわかりやすい。 ・広報誌『にじ色便り』を向陽地区住民センター内にも掲示してみても良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設への利用相談件数について運営推進会議の中の実績報告と一緒に報告していく。広報誌の『にじ色便り』の掲示について向陽住民センターにも依頼し、認知の拡大努めていく。

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・向陽地区での高齢者に対する話し合いの場や地域ケア会議などの定期開催などは現在ない。運営推進会議には民生委員や市、地域包括も参加されているので今後も運営推進会議の中で情報交換を行い対応、サービスへ繋げる役割に推進会議を活用していく。向陽地区に住んでいる家族からも何か相談などがあれば今後も随時対応、関係機関につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を通し、地域の方々や行政との情報交換等行え、実際に地域の認知症高齢者の介入など顔つなぎの場にも繋がっていた。向陽地区にお住まいの方からも随時、利用の相談等あり、実際に利用に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設問Dに関しては、ご家族の方が地域行事への参加状況や地域との交流や関りなど知られていないことがアンケート用紙から感じられる。今後、定期的にご家族にも地域行事の参加や地域との交流等についてお知らせできるような取り組みを検討していく。 ・運営推進会議に出席している人は分かるが出席していない人は分からないかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族に対しての、地域行事の参加や交流等について定期的に書面等にて周知を図っていく。
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族さんへ運営推進会議に急に参加を促すのではなく、会議中での協議されている議題や話し合われた内容、取り組みへ報告などを議事録など書面や家族が集まる機会などに周知をしていく。参加が難しい家族からの意見を聞いていく為に家族へ施設や地域、行政などへの要望、希望、相談について書面を活用し取り組んでいけるよう書式を作成、導入を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の議事録を毎回、家族へ書面にて周知行った。家族からの意見を聞いていく為の書面を活用しての取り組みの実施には実施に向けての話し合いがまとまらず実施に至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・No2の事例検討は個人情報の関係もあり、会議の中では詳しくは話せない内容も多いが会議の議題の中にも盛り込まれ、ふれられている。 行政や地域包括と地域の方（民生委員さん）との顔馴染みの関係作りにも関係しており、個人的な相談や実際の介入に至ったこともある。 ・数名の家族の方の参加はあるがなかなか家族の方の参加は少ないのが課題。家族の方との懇親会的なものも開催しその中で家族の方のみの意見を聞いていくのも手立てではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議とは別に家族行事や家族との懇談の中で家族の意見の収集や施設からの報告の機会を設けていく。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族さんに対しても避難訓練の内容や実施報告を書面で行っていくようにしていく。今後、向陽地区での災害訓練などがあれば施設のほうでもないように合わせて参加していくようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族に対し、書面で施設の消防計画や避難訓練について報告、周知は行った。向陽地区での災害訓練はなかったが2/18に向陽地区の『避難所運営ゲーム（hug）訓練』の開催予定があるので、向陽レインボーとしても専門職として参加を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の消防計画や災害計画は運営推進会議の中で配布、周知し地域の方にも知ってもらうようにしたり、ご家族にもお手紙と一緒に郵送で配布するなどして取り組んでいた。 ・2/18 向陽地区の『避難所運営ゲーム（hug）訓練』の開催予定があるので、向陽レインボーとしても専門職として参加してみてもどうだろうか？向陽連合町内会の役員の方が中心で執り行なわれる。参加について確認してくれるとのこと。 今後も地域からの災害訓練や資源の活用について運営推進会議の中で情報交換を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の災害訓練への参加や運営推進会議の中で今後も引き続き地域での災害対策や社会資源について情報交換を図っていく。